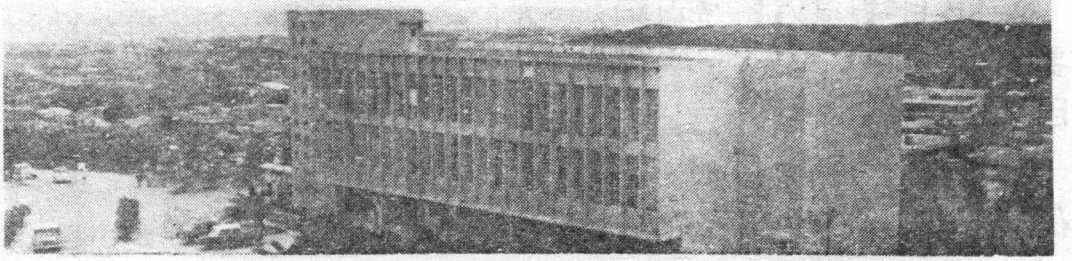
琉球大学附属図書館報

びぶりお



Vol.5 No.4. The University of the Ryukyus Library Bulletin 1971.12.15

資料の検索・入手 <2>

一次・二次資料

一次資料―聞きなれない言葉かと思うが一次資料とは「要約」，または「抄録」されてない完全な形で情報を伝える「論文」のことをいい，例えば雑誌に発表された「オリジナル論文」または単行本の形で発行された「論文」のことをいう。したがって，普通雑誌や，単行本は一次資料と呼ぶことができる。
研究者はこれらの一次資料を入手することによって厳密な意味での研究のスタートが始まる。それぞれの図書館に資料はあるがそれだけでは不十分であり，他の図書館も利用しなければならない。自分達の図書館だけを利用するにせよ，あるいは他の図書館を利用する場合でも必要なすべての雑誌資料に目を通すことは不可能であり，またそのような無駄はやるべきではない。

しからばどうやって必要な一次資料にアプローチするかというと，求めている資料が探しだせるようになっている「目録」とか，「抄録」とか，あるいは「索引」などがないかどうかまず確認する必要がある。これらの「目録」，「抄録」，「索引」類を駆使することにより，網羅的に，かつまた無駄のない有効な必要資料をみつけだすことができる。しかしまた同時に，新しく発行される関係分野のCore Journalについても平行して検索し続けなければならないことはいうまでもない。

二次資料－過去に発表，または発行された資料のなかから必要な資料を探すために作られた参考図書のことを二次資料といい，前述の目録，抄録，索引類がこれにあたる。即ち研究者が必要な一次資料を入手したい場合に，その中間にあって橋渡しの役目をするのがこれら二次資料である。

二次資料を時間的な面からみると，過去に発行されたもの，現在発行中のもの，および将来を展望したものの三つにわけることができる。

過去に発行された二次資料－過去にどんな雑誌関係二次資料が発行されたか，図書館にあるか，また内容の範囲はどこまでか，利用方法はどうなっているかなど知る必要がある。そして過去に発表され，蓄積された一次資料をこれら二次資料を使って探し求めなければならないが，これを「遡及的検索」（Retrospective Search）といっている。この作業をすることにより過去のある時期における研究状況及び結果を大体つかむことができる。研究者にとってこの作業は非常に重要であることはいうまでもない。なぜかというと，研究成果というものは過去の研究業績の積みかさねだからであり，過去の研究状況や，結果を十分に調査しないままに研究を始めると無駄な労力と，とんでもない失敗をひきおこすことになり，ひいてはこれが研究者の命とりにもなりかねないからである。したがって研究者にとって遡及的検索は最も重要な作業といわなければならない。

現在発行中の二次資料－雑誌は継続して発行される。したがって雑誌二次資料も結局，将来にかけて継続して発行される。これらの二次資料から現在の研究状況や，進度がわかるので，一方において過去の資料の遡及的検索をやりながら，他方においては，現在発行中の二次資料から継続的にScreening（ふるいにかける）することにより，自分の必要とする資料が発見できる。

この作業を称してCurrent awarenessといっている。

将来の展望二次資料－学界の状況や動き，あるいは将来の見通

しなどについては一次資料である普通の雑誌からも，例えば「学界展望」とか，「Letter to the editor」とか，または「Short Communication」などの欄から情報を得ることが可能である。しかしながら最近では従来の方法で発表していては時間がかかりすぎるので（最低6ヶ月から1ヶ年は要するといわれている），前述の「Letter to …」や「Short …」には発表しないで，そればかりをまとめて雑誌として専門に発行される種類の出版物がでてきており，いわゆる「速報誌」"Letter Journal"（図書館には physical Review Letters や Tetrahedron Letters などがある）と呼ばれている。

またこれをさらに一歩進めた形で発行されているものに「Biochimica et biophysica acta preview」があり，これは母体誌である"Biochimica et biophysica acta（General subject は受入中）に発表される論文の抄録を，その発行に先行してまとめて発行する予告誌もでるようになった。

このようにして，将来発表される情報源にもたえず気をつけてつねにホットな情報を入手するようにしなければならない。

〔雑誌担当参考司書・新井 裕丈〕

1971 学年度前期指定図書設置状況

1971 学年度前期指定図書設置状況はつぎのとうりである。

法文学部

	指定教官数	指定図書冊数
国文	1	99
英文	3	13
歴史	2	159
地理	1	4
法政	3	96
商学	1	2
美術	1	30
計	12	403

指定教官数 37人は，教官総数301人の12.3%にあたり，70学年度後期の17%に較べて大幅に低下している。

指定図書冊数 882冊も前の学期 967冊よりも減

教育学部

教育	2	32
心理	3	42
初教	2	22
技教	1	2
計	8	98

理工学部

土木	1	17
電気	1	25
計	2	42

農学部

農学	1	5
農化	1	10
畜産	2	34
家政	9	210
計	13	259

教養部

教養	2	80

合計

合計	37人	882冊

少している。表にはあらわしてないが，各学部の教官数に対する指定教官数は，法文17.1％，教育16.3％，理工3.0％，農学20.9％，教養7.7％となっている。

このなかでトップを示している農学部については利用度も高く，全利用冊数，利用人員のそれぞれ29％，27％が農学部の利用状況である。

そのなかでも家政学科の設置状況が主体をなし，ここ数年来の指定図書制度において家政学科は，ほぼ定着したとみてよい。

前学期で4教官38冊の指定のあった保健学部は，今回はゼロである。この現象は，指定図書を設置する際に保健学関係図書の蔵書数が不十分であることを物語るものといえよう。今後蔵書数の増加にともなって，指定図書がふえることが予想される。

今回は前学期よりも指定図書が減少しているが，また単に参考程度に指定したとみられるのもまだある。指定図書制度については教官側にも，図書館側にもなお検討の余地がある。〔閲覧係・大城　康洋〕

琉球大学付属図書館報"ぐぶりお"第5巻4号（通号・19号）
1971年12月15日発行　編集兼発行人　平良　恵仁
沖縄・那覇市当蔵町3丁目1番地　Tel. 34-0101（240）